

様式第 1 号(第 6 条関係)

西予健発第 90号  
平成29年 7 月10日

総務企画部総務課長  
宇都宮 裕 様

生活福祉部健康づくり推進課長 兵頭 健二

会 議 要 録

名 称	西予市国民健康保険診療所運営検討委員会（明浜地区）	
事 務 局	西予市生活福祉部 健康づくり推進課	
	電 話 0894-62-6407	
	F A X 0894-62-6564	
開 催 日 時	平成 29 年 7 月 6 日(木) 18 : 25～20 : 00	
開 催 場 所	明浜支所 庁舎別館 2 階 大会議室	
出席者	委 員	西予市医師会長 井関満永・東宇和歯科医師会長 明石宣文・西予市議会厚生常任委員長 中村一雅・西予市議会 酒井宇之吉、宇都宮俊文・西予市民病院長 末光浩也・学識経験者 平田與輝・俵津代表区長 日越三雄、狩江地区代表区長 宇都宮一郎・副市長 河野敏雅・公営企業部長 三好敏也・生活福祉部長 酒井信也・明浜支所長 山下 玉・市民課長 大森寿和・明浜生活福祉課長 濱田喜基 <u>委員 15 名</u>
	その他	なし
	事務局	生活福祉部健康づくり推進課長 兵頭健二 明浜地区国民健康保険診療所事務長 田村多八郎 医療対策室長 河野千恵香・係長 福井伸二

議事内容(要旨)

1. 開会 福井
2. 市長あいさつ 管家一夫市長
3. 委員の委嘱 代表 日越三雄
4. 自己紹介
5. 西予市国民健康保険診療所運営検討委員会設置要綱について
  - ・委員長、副委員長選出
  - 委員長(平田興輝)・副委員長(山下玉)
6. 協議事項
  - (1) 西予市地域医療対策プラン(案)及び西予市国民健康保険診療所の現状について
    - 1) 西予市地域医療対策プラン(案)について
      - ・市立病院の機能分化、連携強化
      - ・医師、看護師等医療従事者の確保
      - ・国保診療所のあり方を見直し在宅で安心して生活できる体制を整える
      - ・医療・介護等の連携を推進し在宅医療の充実を図る
      - ・策定年度は、補助委員会の事業計画や進捗状況等を勘案しながら、平成29年度末に策定する方向で進める。
      - ・目標達成年度は、2025年とする。
    - 2) 事業フローについて
      - ・西予市地域医療対策検討委員会の補助委員会として、西予市国民健康保険診療所運営検討委員会と市立病院改革推進委員会を設置する。当委員会は、西予市国民健康保険診療所運営検討委員会は地区ごとに国保診療所の運営について検討する。当委員会は明浜地区診療所について検討を行う。
    - 3) 明浜地区国保診療所の状況
      - ・1日平均受診者数、受診者の年齢層、決算状況
  - (2) 国保診療所の課題と方向性
    - ・今後も、高齢化・人口減少等により国保診療所の患者の増は見込めない。診療報酬の増も見込めず、従事者の人件費は年々増となる。故に赤字は毎年増えることが想定される。
    - ・明浜地区国保診療所の方向性(案)
      - 狩江診療所：廃止の方向で検討
        - 住民の受診機会確保のための手段は、訪問診療も視野に入れて検討していく。
      - 歯科診療所：現在、診療している歯科医師に施設を安価で貸し個人で経営してもらおうようお願いする。ダメなら、東宇和歯科医師会に相談する。
        - どちらもダメなら廃止もやむを得ない。
    - ・今後のスケジュール
      - 今年度3回程度、当委員会を開催し、年度内には方向性を決定する。

〈意見・質疑応答〉

(委員)：明浜町住民の医療に対する認識はまちまちであるが、住民にとってマイナスにならないような検討をお願いしたい。

(委員)：明浜の人口は、約 3,300 人だが、歯科診療所が経営していくとすればやっていけるか。医科診療所はいかがか。

(担当委員)：歯科診療所については、昼間の人口や他の地区へ流れる人口等を考慮する必要はあるが、2,000 人いれば十分経営できる。

(担当委員)：医科診療所については、3,000 人いれば経営はできる。但し、医師の資質と経営努力は必要。

(委員)：宇和の歯科診療所は相当の経営努力をしている。それに比べ明浜の歯科診療所はどれだけの経営努力をしているのかサービス業としてのあり方に疑問を呈する。

(委員)：自分は昔から歯科診療所についての経緯を知っている。現在は訪問診療も開始したと聞いているがどれくらいの件数を実施しているのか。

(担当委員)：件数は把握していないが実施していることは聞いている。

(委員)：狩江診療所は、週 3 日の診療と聞いているが、患者はどのような人たちか。

(担当委員)：地元の高齢者がほとんど。自分は利用していないので詳しくは分からないが、利用者は多くないという印象。

(委員)：平成 26 年度から 28 年度にかけて、延べ数ではあるが 4,000 人近い患者減となっている。週 3 日とはいえ常駐の医師が診療を始めても多少でも患者数が戻らないということは、住民の本意はわからないが、側から見れば必要としていないということではないかと思える。

(委員)：今までは、診療所を守ってきたが、現状では財政面も踏まえ在り方を検討すべき。住民が不便にならない代案は必要。地元 3 か所で診療所の廃止について話した。ほとんどの住民が納得している。来年度からは、救急自動車も 24 時間配備される。診療所は必要だが利用しないでは意味がない。

(委員)：何年もやってきてうまく行っていないものが今からうまく行くはずがない。過疎地域においては、予防・治療・介護が連携して地域全体をみていく必要がある。

地域で医師が不在になると一般診療だけでなく、校医もいなくなり、地元の開業医に負担がかかり医師会としても対応に困る。救急医療だけではなく様々な側面から検討する必要がある。

(委員)：一次医療と二次医療の繋ぎはどのように考えているか。

(事務局)：総合的な医療の連携も含めた確保のために、地域医療対

	<p>策プランを策定する。そのプランに基づいてできることから取り組んでいく。</p> <p>(委員)：明浜地区は昔から医療サービスが政治的な背景もあり過剰になっている。住民はそれを当たり前と思っている。</p> <p>過去に田之浜や高山診療所が廃止になりいろいろな経緯があった。市民病院が新設された時に、市は明浜からの直通バスを作らなかった。三瓶は、八幡浜市立総合病院が出来た時に直通便を作ったので住民は八幡浜へ流れているし、便数も多い。廃止するなら代案としての交通網の整備は必要。</p> <p>(委員)：住民の歯科診療所へ関心はあるか。</p> <p>(担当委員)：歯科診療所のない地区の住民は宇和島へ受診するものが多く関心はない。</p> <p>(委員)：福祉バスを利用する人がいないけど廃止してはいけない。診療所も利用者が少ないからという理由で廃止すると二度と同じものは立たない。</p> <p>(委員)：失くしたら困るがあっても実際には利用しない。</p> <p>(委員)：宇和においても内科の開業医は減っているのではないか</p> <p>(担当委員)：高齢化に伴い減少している。</p> <p>(委員)：医療対策室を作ったことで横断的な連携が取れ始めた。公立病院の役割は、不採算医療にどう取り組むか。</p> <p>現状だけではなく2025年に向かって共通認識をもつことが重要である。</p> <p>(委員)：田之浜診療所を廃止した際に、バスの利用について半額になる制度を作ってもらった。住民は大変喜んでいいる。</p> <p>(委員)：バスの直通便の話が出た時に、宇和島バスの関係や民間の診療所の営業妨害になってはいけないこと等を考慮し、運賃の半額補助とした。狩江診療所を廃止することに伴い全額補助は出来ないと判断した。市内だけの生活福祉バスならいいが、市外に通学する高校生への支援できない。</p> <p>これがベストという交通手段案は思いつかない。足の確保については皆さんの意見をもらいながら総合的に判断していきたい。</p> <p>(3) その他</p> <p>以降の会議は本庁開催で。</p> <p>6. 閉会あいさつ 副委員長 山下玉</p>
備 考	資料【西予市地域医療対策プラン(案)・事業フロー図・明浜地区診療所の状況調べ】

## 概要

年度 2017年度～

カテゴリ 行政一般

審議会名 西予市国民健康保険診療所運営検討委員会

公開開始日

審議会の概要

西予市国民健康保険診療所運営検討委員会は、愛媛県地域医療構想に基づき、西予市における地域医療の確保を図るため設置している「西予市地域医療対策検討委員会」の補助委員会として設置します。

委員会の開催（年3回）は委員長が招集し、市内8か所の国民健康保険診療所の運営や方向性について検討を行い、その結果を「西予市地域医療対策検討委員会」に報告し、施策に結び付けます。

なお、委員は、医療・学識経験者・市民の代表者・市職員の20名以内で組織し、市長が委嘱または任命しています。